

瀧 大豪さん

大野市出身 2025年入社
生産管理



農業と福祉の連携から
得られる学び。

常に新しい農業に挑戦している会社の
一員であることが誇りであり、やりがい
です。障がいのある仲間がいさいき働
く姿から学ぶことも多く、仕事のあり
方を考えさせられます。

宗石 潤一さん

あわら市出身 2024年入社
執行役員



地域の笑顔を支える
農業のやりがい。

スマート農業での田植えや稲刈りなど
の農業で地域の方々に喜んでもらえる
とやりがいを感じます。失敗を恐れず
のびのびと挑戦できる環境で、モチベ
ーション高く仕事に取り組めます。

木村 康正さん

福井市出身 2025年入社
生産管理



自然の営みに寄り添い、
毎日の経験を糧に。

今、先輩職員のサポートを受けながら
仕事を一生懸命覚えています。自然が
相手なので大変なことも多く、結果も
すぐには出ませんが、そこがやりがい
でもあります。

仕事のやりがいを教えて！

1日の流れは？

小泉 一也さん

あわら市出身
2013年入社
執行役員



START

8:30 出社後、業務の打合せ
8:45 加工場へ移動
9:00 合わせ柿のタンクのガス濃度チェック

9:15 合わせ柿のガス抜き、タンク洗浄、袋詰め
12:00 事務所に戻って昼休憩
13:00 加工場へ移動して作業再開

FINISH

15:00 10分間の休憩、新たな合わせ柿のガス入れ
17:00 事務所に戻って職員会議
18:00 退社

ライター
VOICE

農福連携＋スマート農業という、新しい農
業のあり方や地域への貢献度、進化し続
ける姿勢に驚きと感動を覚えました。

宇野 光宏さんは

お弁当

お昼は会社の事務所や作業所
で手作り弁当を食べています。
スマホでニュースをチェックし
たり、上司に仕事の内容や心
得を相談したりしながら過ごし
ます。食後は軽く昼寝をして、
体力を回復させています。



今日のお昼、何たべた？

視察研修の受け入れ多数。

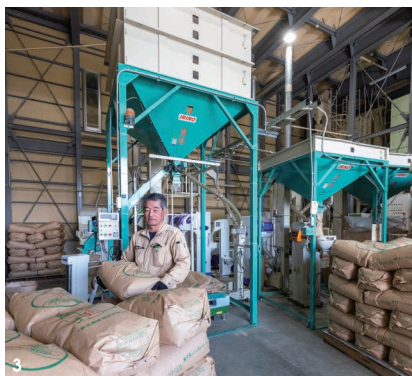
農福連携の先進事例として、県内外の
行政機関や大学、各種法人などの視察
研修を積極的に受け入れ、農業の未来
をけん引しています。



魅力的な農産加工品。

かきもちやいちごジャム、あんぼ柿や合
わせ柿などの農産加工品はスーパーや
道の駅などで販売され、自宅用だけ
でなくギフトとしても好評です。

実は…こんな会社です



1／ロボット田植機を導入し、作業を大幅に効率化できるようになりました 2／全国でも数少ない、農福連携とスマート農業の両方を実施しています 3／乾燥調整施設の温度管理にはインターネットとICTを活用しています

テクノロジーと福祉の力で
地域を元気に。

あわら農楽ファームは100ヘクタール以上の農地を管理し、米・大豆・そば・さつまいもなどを栽培しています。観光いちご園やメロンなどの施設園芸のほか、かきもちやいちごジャムなどの農産加工品の製造・販売も行い、地域の「おいしい」を届けています。

農業の担い手不足が深刻化する中、全国に先駆けて、農業と福祉を連携させた「農福連携」に取り組んできました。障がいのある方に働く場を提供しながら、担い手不足の解消にもつなげています。ドローンやロボット田植機、アシスト付コンバイン、インターネットとICTによる温度管理システムなど、スマート農業の最新技術も積極的に導入。作業が効率化され、障がいのあるスタッフの活躍の場も広がっています。

社員のスキルアップを支援する教育訓練休暇制度があり、大型特殊免許やドローン操縦、ロボット農機の操作など、多くのスタッフが専門技術を身に付けています。また、何でも相談し合える風通しの良い環境も魅力です。

今後は、観光いちご園の拡大やワイナリーとの連携、スマート農業体験などを通じてあわら市の交流人口を増やし、自然と人にやさしい農業で地域を盛り上げていきます。



農山漁村の魅力を生かした地域活性化の優良事例として「ディスカバリー農山漁村（むら）の宝」に選定されました

56

有限会社 あわら農楽ファーム

〒919-0601 福井県あわら市山室72-101
TEL.0776・73・5955
設立：2001年
代表取締役：館 恭弘

事業内容

農産物の生産・販売、
農産加工品の製造・販売



インターンの
受け入れ

UIターン
採用

中学生
職場体験の
受け入れ

DATA

従業員数
9人

従業員の
男女比
8:1

従業員の
平均年齢
56歳

あわら市
以外の勤務地
なし

勤務時間
8:30～
17:30

制服・仕事着の
支給・貸与
なし

ガイドはこの人！



齋藤 峰雄さん

坂井市出身 2013年入社
執行役員